

平成 29 年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名 【千葉県】

| 1 実践テーマ | 【 I・III・V 】 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--|--|---|---|---|---|---|---|--------------------|--|--|--|--|---------|-------------------------|--|--|---|--|-----|--|--|--|
| 2 実施対象者 | 学校名：千葉県立蘇我小学校 対象学年：第2学年 クラス（人数）：3クラス 100名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 展開の形式 | (1) 学校における活動 ①教科名 (体育科・保健体育科) ②行事名 () ③その他 () (2) 地域における活動 ①イベント名 () ②その他 () | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 目標(ねらい) | モデル校での実践等を通して、体育・保健体育の学習を充実させ、子供たちが、よりスポーツを好きになり、生涯にわたって運動に親しむ資質を育むこと、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図ることを目的とする。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 取組内容 | <p><道すじ></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td colspan="5">つながる運動（2人でころがしゲーム）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">↓ 45</td> <td rowspan="2">ヨ リ エン テー シ</td> <td colspan="2">ねらい① やさしいルールで「ころがしボールゲーム」を楽しむ。 (目かくし・守りなし)</td> <td colspan="2">ねらい② 目かくしをしたり、ゴールに守りをつけたりして「ころがしボールゲーム」を楽しむ。</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: right;">まとめ</td> </tr> </tbody> </table> <p>※パラスポーツへの理解関心を高めるとともに、多様性を受け入れ、共生社会の実現を目指そうとする姿を育むため、オリエンテーションや配当時間外の時間を使い、ゴールボールの実際の競技映像を見せて競技の様子をつかませたり、ゴールボールのルールを紹介したりした。</p> <p><手だて> (1) ボールについて ・ねらい①では、様々な大きさ・重さのボールを選択できるようにした。ゲームの中でそれぞれのボールの特徴に触れさせた。 ・ねらい②では、目隠しをするため、ころがした際に音が鳴るよう工夫する。その際、体にあたっても痛くないよう、ボールは</p> | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 0 | つながる運動（2人でころがしゲーム） | | | | | ↓ 45 | ヨ リ エン テー シ | ねらい① やさしいルールで「ころがしボールゲーム」を楽しむ。 (目かくし・守りなし) | | ねらい② 目かくしをしたり、ゴールに守りをつけたりして「ころがしボールゲーム」を楽しむ。 | | まとめ | | | |
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0 | つながる運動（2人でころがしゲーム） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ↓ 45 | ヨ リ エン テー シ | ねらい① やさしいルールで「ころがしボールゲーム」を楽しむ。 (目かくし・守りなし) | | ねらい② 目かくしをしたり、ゴールに守りをつけたりして「ころがしボールゲーム」を楽しむ。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | まとめ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

①鈴入りソフトタッチボール ②ソフトバレーボール（高学年用）をスーパー等のビニール製手提げ袋に入れたもの のいずれかを使用した。

(2) アイマスクについて

- ・目隠しをする際、アイマスクを共同購入費で一括購入し、使用した。その際、衛生面から、貸し借りはしないように指導し、毎時間ビニール袋などに入れて個人で管理させた。

(3) 場について

- ・ねらい①は、ゴールとなるカラーコーンの間の間隔の大小や、投げる距離によって得点のルールを設定できるようにした。
- ・ねらい②は、投げる距離によってのみ、得点のルールを設定できるようにした。
- ・ボールの転がる音を聞きながら動くことになるため、周囲が静かにしなければならないときは、実況・補助係の児童が「おしずかに」と言ってプラカードを掲げ注意を促すこと、その際は、周囲の児童は口を閉じることをルールとして、教師が指導した。



6 主な成果

(1) 関心・意欲面

- 授業に対して大変意欲的に取り組む姿勢が見られた。特に、目隠しをしてゲームに取り組むことに対して楽しみを見出した児童が多くいた。
- ねらい②では、自分の転がしたボールの軌跡がどうだったかを友達に尋ねたり、同じチームの児童に「ここを狙うといいよ」などと教え合ったりする姿が見られた。

(2) 思考面

- ねらい①からねらい②へ移行したところで、どのように投げたら得点できるかを工夫する姿が見られた。例えば、そっと足音を消して移動し、ゴールの端を狙う児童や、勢いをつけてボールを転がす児童などが見られた。



守りについても、どのタイミングで体を投げ出して守ったらよいのかを試行錯誤する姿が見られた。

(3) 技能面

| | |
|-----------------------------|--|
| | <p>○事前調査では6 m離れた場所から3 m幅のゴールにボールを確実に転がし入れることができた児童(2回投げて2回とも入る)が全体の18.2%であった。事後の調査では、72.7%の児童が確実に転がし入れることができた。また、事前では21.2%の児童が一度も転がし入れることができない、もしくはボールがゴールに届かない状態であったが、事後では3.0%にまで減少した。</p> <p>○事後調査では、ゴールまでの距離を8 m、10mにしての調査も行った。その結果、8 mでは54.5%、10mでは33.3%の児童が確実にゴールへボールを転がし入れることができた。</p> <p>(4) その他(オリパラアンケートより)</p> <p>○オリンピックを「とてもよく知っている」と回答した児童の割合が、事前では、42.4%であったが、事後では60.6%に増えた。また、パラリンピックを「とてもよく知っている」と回答した児童の割合が、事前では27.3%であったが、事後では45.5%に増えた。自らの経験や、映像資料などを通してより深く理解したと考えられる。</p> <p>○「自分に良いところがあると思うか」という問いに対して、「とてもそう思う」と回答した児童の割合が事前では39.4%であったが、事後では54.5%に増えた。また、「むずかしいことでも挑戦していると思うか」という問いに対しては、「とてもそう思う」と回答した児童の割合が事前では72.7%であったが、事後では81.8%に増えた。自分の役割が明確だったこと、友達と深く関わったこと、目隠しをしてボールを転がすという、児童にとっては「難しいと思ったこと」にも取り組んできたことなどから、単元を通して自尊感情が高まったと考えられる。</p> |
| <p>7 実践において工夫した点(事業の特色)</p> | <p>○コート数を増やして、ねらい①では、チームに1つのコート、ねらい②では、1対戦に対して2つのコートを割り当て、運動量の確保を図った。特に、ねらい②においては、同時に2つのゲームを進めることができたため、児童の待ち時間が減り、十分に運動量を確保することができた。</p> <p>○授業が進むごとに、ボールに勢いをつけようとするあまり、ボールを放り出してしまうようになった。「転がす」ということを常に意識させるようにした。</p> <p>○守り・攻めともに、しゃがんでライン上を左右に動くことを促した。そのことで、攻守に幅が生まれ、思考面が高まった。</p> <p>○喜びの共有や、動き方の教え合いなど、会話や声が必要となる場面は、小さな声で話したり、ボディランゲージで感情を表現したりする方法を教え、促した。また、静かにするよう促す方法としてプラカードを掲げ、「おしずかに」というようにした。体育の授業以外にも、日常生活で活用する姿が見られた。</p> |

| | |
|---------------------|---|
| <p>8 主な課題等</p> | <p>○評価について、特に、技能面の評価については、「ねらった方向へまっすぐに転がす」「目隠しをした状態でゴールを守る」としたが、これが妥当かどうか、検討が必要である。</p> <p>○ひも入りのラインテープを2週間程度体育館の床に貼っておくことになる。そのため、施設開放で利用する団体や他学年の授業の支障になることがあった。また、養生テープを用いたが、摩耗に弱いため、ひもが抜けてしまったり、はがした跡が残ってしまったりした。</p>  |
| <p>9 来年度以降の実施予定</p> | <p>○低学年「多様な動きをつくる運動遊び」の「用具を操作する運動遊び（用具をつかむ、持つ、降ろす、回す、転がすなどの動き）」の一つとして、1学年で本単元ねらい①の「目隠しなし、守りなしの転がしボールゲーム」、2学年で本単元ねらい②の「目隠し、守りありの転がしボールゲーム」に取り組むことを検討している。</p> <p>○各学年のボール運動領域の中に、「パラスポーツ」という時間を数時間設け、それぞれのボール運動の単元終了後に、経験させるという方法も検討している（例：低学年＝ゴールボール、中学年＝シッティングバレーボール、高学年＝車いすバスケットボール など）。</p>  |